

事業コード	H22-建-継-03		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	田沢湖		担当課長名	河川砂防課長 秋元 良三
箇所名	仙北市田沢湖		担当者名	主幹(兼)班長 鏡 藤広
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

## 1. 事業の概要

事業期間	H13 ~ H23 (11年)		総事業費	43.2億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長 L=5,350m						
事業の立案に至る背景	田沢湖は昭和14年の玉川河水統制計画により発電を行っているが、これに伴う水位変動により湖岸の浸食が進行している。既設護岸はこの浸食により崩壊し、背後の県道(観光用周遊道路)、民家及び農地等が危険な状態であるため、整備を行っていくものである。						
事業目的	水位変動や季節風による湖岸浸食を防止し、自然公園としての景観の維持、周遊道路利用の危険性の解消を図るものである。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	4,030,000	4,316,400	286,400			
	経費内訳	工事費	3,703,000	3,962,300	259,300	湖岸浸食の進行による増	
		用補費	25,900	31,000	5,100		
		その他	301,100	323,100	22,000		
	財源内訳	国庫補助	2,015,000	2,158,200	143,200		
		県債	1,813,000	1,942,380	129,380		
その他		0	0	0			
一般財源	202,000	215,820	13,820				
事業内容	築堤、護岸工、用地交渉	築堤、護岸工、用地交渉			湖岸の浸食が進行したため、袋詰石工の施工量が増加したことによる。		
事業の進捗状況	全体事業費	43.2億円	平成21年度末投資額	40.3億円	事業進捗率	93.3%	
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」で5つの戦略を支える横断的な取組の(4)社会資本整備の推進の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	県予算を集中投資し当初計画通りに実施しているところである。地元からは護岸崩落により、自然環境の悪化や田沢湖環境への悪影響を防止するため、湖岸崩落対策の早期完成が求められている。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率					
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	44.9 %		データ等の出典	県河川砂防課		
	実績値 b	45 %					
達成率 b/a	100.2 %		把握の時期	平成22年3月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	自然環境の悪化や田沢湖観光への悪影響を防止するため、地元より湖岸崩落対策の早期完成が望まれている。	9 点
緊 急 性	湖岸浸食により湖周道路が崩落した場合、県道を分断し、交通に多大な影響を及ぼすとともに、観光への悪影響もあることから、早期に対策が必要である。	13 点
有 効 性	「ふるさと秋田元気創造プラン」の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられており、改修により自然環境の悪化防止などが期待できる。	13 点
効 率 性	事業の費用便益比は 1.66 であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 87.5 億円 ・総便益の現在価値 145.7 億円 盛土材に他工事の発生材を利用するなどコスト削減を図っている。	13 点
熟 度	地元自治体で「田沢湖湖岸崩落対策特別委員会」を組織するなど、湖岸浸食に対する関心が高い。 工事施工に当たっては、自然石護岸として表面を被覆し、在来種の植生を導入するなど、環境へも配慮している。	25 点
判 定	ランク ( ) 田沢湖は秋田県を代表する観光地であり、事業実施済み区間については景観及び周辺道路の保全について、すでに効果が発現しており、地元からは未実施の護岸崩壊区間について継続実施の要望は高く、事業の必要性は高い。	73 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H22-建-継-03 )  
箇所名 (仙北市田沢湖 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	3		
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3			
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設 無し	5 3 0	3		
	整備計画の策定					
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある 予定無し	5 3 1 0	3		
	計		30		9	
	緊急性	災害発生危険度				
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 5	10	
		秋田県水防計画				
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3		
計			15		13	
有効性	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない	7 0	7		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる 親水性は現状と変わらない	5 0		5	
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある 予定無し	3 1 0	1		
	計		15		13	
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比 (B/C)	1.0以上 1.0未満	5 0	5		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上 2項目 1項目 無し	5 3 1 0	3		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5		
	計		15		13	
熟度	地元との合意形成の状況					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	5		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある 参画している 参画していない	5 3 0		5	
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗 (90~100%未満) 計画より遅れている (90%未満)	10 5 3	10		
	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上 システムでの環境配慮事項が1~2事項 システムでの環境配慮事項がない	5 3 0	5	システム = 秋田県公共事業環境 配慮システム	
計		25	25			
合計			100	73		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		